

第5回 千里浜再生プロジェクト委員会 会議概要

1. 日時：平成26年3月25日（火）14：00～16：00

2. 場所：石川県地場産業振興センター 新館5階 第12研修室

3. 会議次第

(1) 開会

・事務局の司会進行により開会された。

(2) 挨拶

・石川県鈴木土木部長から挨拶が行われた。

(3) 議事

1) 議事公開の可否について

・委員長から議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。

2) 千里浜再生プロジェクト委員会 検討資料説明

①海岸保全の意識向上のための取り組みについて

②浚渫砂の海上投入について

③砂流出防止工（サンドパック）について

④新たな人工リーフの検討について

⑤今後の予定について

・事務局から①～⑤について説明が行われた。

(質疑)

・各委員からの主な質疑・意見内容について、次ページ以降に示す。

(4) 閉会

・石川県土木部中出河川課長から閉会の挨拶が行われた。

第5回 千里浜再生プロジェクト委員会（平成26年3月25日開催） 議事概要

1. 各委員からの主な質疑・意見

1.1 「これまでの経過」について（説明：事務局）

- ・特になし

1.2 海岸保全の意識向上のための取り組みについて（説明：事務局）

- ・特になし

1.3 浚渫砂の海上投入について

- ・来年度以降は、全ての浚渫をポンプ浚渫で行わないといけない。ポンプ浚渫で浚渫したものを活用することを前提にこの海上投入を進めていく必要がある。
- ・SS、浮遊物量の部分の水質監視基準値について10 mg/ℓの根拠というのは特にあるのか。
→（事務局）環境省の基準で湾工事等において広く一般的に使われている方法で、昨年と同じやり方をしている。
- ・貝桁調査結果から、周辺から入り込んで成長したのか。あるいは、そもそも海上投入した土砂の中にそういったものが入り込んでいた分析しているのか。
→（事務局）専門の委員の方に意見を聞いて、これらの貝がどちらから来たかということについては再度報告する。
- ・2.5万m³というのが現状この期間で投入できる最大ぐらいと考えてよいか。この2.5万m³という数字は主に投入地点⑩地点と金沢港との距離に大きな影響を受けるというふうに考えてよいか。
→（事務局）基本的には約3万m³を目指して今後もやっていきたいと考えている。投入場所までの距離があると投入量は限定される。
- ・投入の総量を増やすためには、投入地点を拡大する必要があるのか。
→（事務局）そのとおりである。引き続き漁業等の関係者の方と相談しながら進めていく。
- ・海上投入の効果を期待するとき、効果についてシミュレーションはできないのか。
→（事務局）何をどのぐらい投入すれば千里浜に到達するかは、よくわかっていない。しばらくは現状の海上投入を続けて、データを蓄積していく。その間に、漁協、地元の方々の理解が得られるようなところがあれば、場所を変えて投入する可能性もある。
- ・膨大な量を投入しないと、多分効果は出ないと考えられる。
- ・（委員長）個人的な感触では、自然の状態だと金沢港の付近だと年に10万m³ぐらいのものが南のほうから動いてきて、それが北へ移動していると考えている。

1.4 砂流出防止工（サンドバック）について

- ・将来的にサンドバックの効果を検証するにあたっては、写真だけで判断するのではなく、沿岸方向の変化も周りと比較しながらサンドバックの効果を検証する必要がある。どれだけが海上の土砂投入の影響で、どれだけがサンドバックが機能したかをデータが蓄積して検討する必要がある。
- （事務局）今後、データが蓄積されてから検討する。
- ・サンドバックの設置前と設置後で地下水位が変化したというようなことはなかったか。
- （事務局）周りの地点との比較でみると、若干サンドバックのある個所では、季節によって水位の差が若干大きくなっている。
- ・現場で観測すれば、奥に波が逃げにくいのでたまっているのも水位が高くなると思っ
- ている。
- ・（委員長）効果を判断するときには、定量的な観測を積み重ね、季節的な変化の特徴を把握することが重要である。資料を積み重ね委員会に報告し、それをもとに議論することが重要である。

1.5 新たな人工リーフの検討について

- ・人工リーフ設置の副作用としては、下手側が侵食する可能性もある。今後、数値シミュレーション等によりリーフの影響を詳細に検討する必要がある。そういう検討の中では、近傍の3つの事例を調べるのは非常にすばらしいことだと思う。数値シミュレーションの現地適用性は既設の3つの人工リーフでチェックすると信頼度の高い結果が得られる。
- ・人工リーフの整備は養浜と組み合わせて実施した方がよい。
- （事務局）今現在は海上投入に加え、年間約 5,000 m³程度陸上から養浜を実施している。千里浜は、砂の性質は独特であるため、どこの砂でも持ってこられるというのではなく、使える砂も今後調査する必要がある。人工リーフの検証をしながら必要に応じて養浜等も検討していきたいと考えている。
- ・設置場所については地元と協議して進める必要がある。また地域のそういった意見を取り入れた中で、お互いに勉強する部分もあると思う。
- （事務局）当然地元と調整をして、地元の意見を聞きながら設置場所等を決めていこうと考えている。
- ・検証しながら必要に応じて養浜するというのは、副作用が出てから対処することになり後手に回る。千里浜は今でも砂が足りない状態なのだから、リーフ設置と同時に周囲の砂浜にも砂が行くくらい養浜すべきである。
- ・人工リーフは局所的に堆積を促進する効果はあるが、土砂量自身を増やすものではないので海上投入については引き続き努力していく必要がある。人工リーフの効果が効きすぎると下手側が侵食される可能性があるため、状況を見ながら措置を講じる必要がある。

1.5 今後の予定について

- ・モニタリングについては今年度、昨年度と同様のものが継続されるのか。
→（事務局）今後も同様のモニタリングを継続する予定である。